

平成30年度病虫害発生予察指導情報

対象病虫害：斑点米カメムシ類（No. 4）

平成30年7月27日
鳥取県病虫害防除所

1 情報の内容

7月20～26日に行った早植え、極早生品種等、すでに穂揃い期を迎えた水田における本田すくい取り調査の結果、斑点米カメムシ類の発生ほ場率は87.5%であった。

穂揃い期～乳熟初期の防除を徹底するとともに、周辺に発生源（イネ科雑草）の多いほ場では防除後も発生状況に注意する必要がある。

2 発生状況

- (1) 7月26日現在、水田内では、アカスジカスミカメ、クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、トゲシラホシカメムシなどの発生が認められる。発生ほ場率は87.5%、要防除水準を超えているほ場率は52.5%、平均すくい取り虫数は、22.5頭（捕虫網25往復50回振り虫数）であった。
- (2) 水田内でのカメムシ類の発生状況は、ほ場間差が非常に大きく、水田周辺に出穂したイネ科雑草が多いほ場を中心に多発ほ場が点在している。
- (3) 7月17日現在、水田周辺のイネ科雑草では、アカスジカスミカメ、クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、トゲシラホシカメムシなどの発生が認められ、特にアカスジカスミカメは高密度（5往復10回振りすくい取り虫数500頭以上）で発生している地点が散見される。

3 防除上注意すべき事項

- (1) 水田周辺の雑草地、畦畔などのイネ科雑草はカメムシ類の増殖源となるので、適正な管理を行う。
 - ア 早生品種等、7月下旬～8月上旬に出穂するほ場
出穂20日前頃に畦畔等の草刈りを行ったほ場では、再生したイネ科雑草が出穂する前に再度草刈りを行うと、カメムシ類の密度がさらに低下する。一方、出穂20日前頃に畦畔等の草刈りを行っていないほ場では、穂揃い期から乳熟期に草刈りを行い、その直後に、水田に追い込まれたカメムシ類を粉剤、水和剤などで防除する。
 - イ 遅植えほ場、中生品種等、8月中旬に出穂するほ場
イネの出穂20日前頃及び出穂期にイネ科雑草の草刈りを行って、カメムシ類の発生源を少なくする。ただし、イネの出穂期以降に、穂を付けたイネ科雑草の草刈りを行うと、穂で増殖したカメムシ類を水田に追い込むので、出穂期の草刈りはイネ科雑草が穂を付ける前に行う。
- (2) 水田内で穂をつけたヒエ類はカメムシ類の発生を助長するので、見つけ次第抜き取る。

(3) 薬剤防除を適期に行う。

ア 粉剤、水和剤などを使用する場合

薬剤防除は穂揃い期から乳熟初期に行い、その後も発生が多い場合は7～10日間隔で1～2回の追加防除を行う。防除は地域一斉で行うと効果が高い。なお、出穂前散布の防除効果は期待できない。

イ 粒剤を使用する場合

病害虫防除指針等を参考にして、各薬剤の散布適期に湛水散布を行う（湛水散布にあたっては、農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項などを確認するとともに、止水期間を7日間とし、また、農薬の流出を防止するために必要な措置を講じるように努める）。また、散布後も発生が多い場合は粉剤、水和剤などで追加防除を行う。